

奥日光活性化プロジェクト

地域：奥日光

パートナー：栃木県環境森林部自然環境課

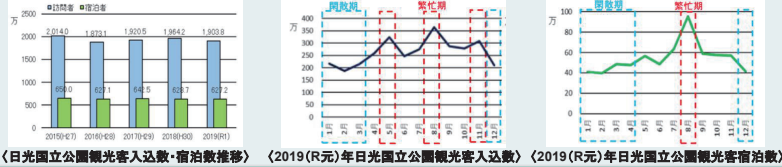
4班 コミュニティデザイン学科
建築都市デザイン学科

川上那知 山口菜々
小口統矢 古田嶋健登
高橋幸子
安田夏実 熊谷翔斗
遠藤康一先生

社会基盤デザイン学科
グループ指導教員

01.背景

自然あふれる国際的な避暑地である奥日光だが、外国人観光客の約5割、日本人観光客の約7割が日帰り客であり、観光消費額が伸び悩んでいる。また、繁忙期と閑散期の差が激しい。



02.目的決定までの経緯

- ・奥日光の観光スポットに実際に赴き、実状を知る
- ・実際に奥日光で事業を営んでいる方の思い・考えを伺う

→ 夜に営業する店舗が少ない、最終バスが早い
(現地の方のご意見)

→ 夜の魅力的なアクティビティが少ない、



交流できる場所がない(学生の意見)

- ・人々が交流できる場の創出
- ・夜の憩いの場の創出

夜の活動を
活発にする

長期滞在が増える
アクティビティの創出

テーマ
夜×奥日光

03.目的

☆夜×奥日光

→人々が夜に交流できる場を創出することで、夜の活動を活発にし、長期滞在を増やす

04.提案

〈1st Cycle〉夜×奥日光

①夜×ビアガーデン 交流の場の創出

- ・事業者同士や外部とのつながりを作ることが期待される
- ・夜のアクティビティ増加→長期滞在者増加

②夜×自然 豊かな自然を活用した天体観測

- ・日光の自然の素晴らしさの再認識
- ・いつでも立ち寄れる場所→疲労回復、リフレッシュ効果

〈2nd Cycle〉蹶起酒会

夜×ビアガーデンに焦点を当て、事業者のみのプレ開催を企画した

他業種との関わりが少ない
意見交換会の機会が少ない

奥日光全体のつながりの強化

活性化をさらに勢いづける！

05.方法 ～蹶起酒会の開催～

奥日光における事業者の方向士のつながりを深めていくことが活性化のために不可欠だと検討し、お酒を交えて職種や年齢に関係なく意見共有する場を「蹶起酒会」と題して企画した。

日時:2024年12月10日(火) 17:00～20:00
場所:ZEN RESORT NIKKOさん

- 実施内容
- ・学生の提案
 - ・ワークショップ
 - ・親睦会



ワークショップで得られた意見

テーマ① 奥日光はなぜ日帰り客が多いのか

- ・東京(首都圏)から近い
- ・高級ホテル or 民宿のどちらかしかない
- ・日光＝秋＝渋滞という認識の悪循環
- ・飲食店の営業時間が短い

テーマ③ 観光客の長期滞在化のために各職種が個人でできること

- ・(飲食) 宿泊施設に合わせた営業時間
- ・(宿泊) 長期滞在できるプランの設定
- ・(広報) ブランド化を目指す

テーマ② テーマ①の意見が生じる原因

- ・お土産や飲食店が時代に合っていない
- ・映え写真を撮って満足してしまう
- ・交通の便が悪い
- ・国立公園で規制が厳しく、改革が難しい

テーマ④ 観光客の長期滞在化のために各職種が連携してできること

- ・宿泊施設でおすすめの飲食店の紹介＝泊食分離
- ・メディアとの連携
- ・小中学校を利用したイベントの開催

06.分析結果

蹶起酒会の効果

- ・蹶起酒会の満足度◎
- ・「活性化に繋がろう」
- ・「またやりたい」という参加者が多く見られた
- ・「若い世代との交流ができて楽しかった」
- ・「地域の人と話せてよかった」

奥日光の現状

- ・奥日光で何かやりたい！と思っても...
- ・何をしても申請が必要なのが手間
- ・空き店舗や土地の所有権問題
- ・高齢化が進み、マンパワーが足りない
- ・夜に人が来ない

つながり作りに貢献

今後の活性化の糸口が見出せた！

様々な問題が絡み合っている

日帰り客・短期滞在にフォーカスする！

07.今後の展望

奥日光には、いろいろな魅力・課題が存在しているが、それらは点在していて、繋がっていない。→それらを繋げる仕組みを作るべきではないか。

